

令和2年度事業について

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和41年4月11日（法人成立の年月日）
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

2. 植物園概要

正会員のデータ更新調査は実施せず、次年度に延期

3. 国際活動

EABGN（東アジア植物園ネットワーク）会議（2020/10月 瀋陽市植物園）実施なし

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

正会員21園からの情報をもとに種苗交換植物リスト（分譲274種を掲載）を作成、リストには植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」を一緒に掲載し、正会員に斡旋を行った。「絶滅危惧植物の種苗交換」は、種子保存拠点園である環境省新宿御苑がとりまとめとリスト作成（リスト提供園数11園、71種掲載）を行い、リスト小冊子を正会員に3月に配布した。

2. 植物多様性保全拠点園事業

絶滅危惧植物保有状況調査

5年ごとに行う保有状況調査（第4回保有調査：2018年開始）を継続中。絶滅危惧植物の保有種数増加を目的として、植物園未保有種リストに採取可能性、栽培可能性、生育環境条件、分布等の情報を加えたターゲットリストを改訂した。

絶滅危惧植物保全データベース

データベース入力促進を呼びかけ、環境省連携事業での収集データと連動して登録種数を増やした。各植物園が登録したデータは絶滅危惧植物保全データベース分科会でスクリーニングしてから公開。登録総数2,224種中、生育特性情報掲載699種。

絶滅危惧植物の情報取り扱い検討

生息域外保全情報管理システム（植物個体管理データベース）の運用開始に向けて、「絶滅危惧植物の情報取り扱い分科会」を開催した（2月22日）。「絶滅危惧植物の情報の取り扱いに関するガイドライン」の改訂の方針ならびに、DBの項目ごとの公開範囲を決めた。

植物多様性保全拠点園ネットワーク活動

- ・種子等採集と種子保全拠点園（新宿御苑・沖縄美ら島財団）で絶滅危惧植物の種子保存を行った。保有種数を増加させるため、収集率の低いカヤツリグサ科、ラン科、イネ科、キク科等の分類群を重点的に収集する必要がある。

- ・各地の拠点園連絡会議は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。

・絶滅危惧植物の種苗交換：11園から71種の提供があり、幹旋を行った。

外来植物対策

・ケーブルテレビ富山の外来種駆除に関する番組制作に協力、出演した。

・富山県の湧水小河川で外来水草アメリカウリカワ *Sagittaria subulata* の日本新帰化が確認され、中田委員が現地を実態調査を行ない侵略性が強いことを確認した。

・キンケイギクの名前で販売されている植物の実体について植物写真家河野隆行氏（オオキンケイギク同定に関する問題の提起者）と調査報告を共同執筆、植物園協会誌に掲載した。

3. ナショナルコレクション活動の展開

委員会を3回開催（WEB会議）し、ロゴマークの使用条件、HP修正、パンフレット修正、新パンフレット作成、第4-6号認定の広報、ナショナルコレクションのわかりやすい副題等、認知コレクション保持者の特典、申請基準、データベース、ロゴマークの商標登録、申請料・登録料・更新料等の検討、助成金申請、SNSの利用等を検討した。

認定証の授与

高知大会が中止となったため、以下3件の認定済みコレクションについて、認定証と楯を送付し、プレスリリースを新聞等のマスメディアに送付、また協会HPに掲載した。

第4号 兵庫県立フラワーセンター「兵庫県立フラワーセンター ストレプトカーパス属コレクション」

第5号「兵庫県立ウツボカズラ属の原種の系統保存コレクション」

第6号 浜崎大「江戸時代の奇品植物」

新規認定

第7号 広島市植物公園「変わり葉ゼラニウムコレクション」 2020年12月15日認定

普及活動

・第18回 植物園シンポジウム「守り、つなぐ、江戸園芸」 ナショナルコレクション

東京都神代植物公園で2020年4月26日（日）に開催予定だったが、COVID-19の感染拡大による非常事態宣言により2021年3月7日（日）に延期としたが、再度感染拡大が懸念されるため再度来年度に延期。実施時期は未定。

・一般向けA4パンフレットの制作（3000枚）加盟園への配布/A3パンフレットの改訂、印刷

HPでの認定コレクション情報公開（認定第4～6号）と新HPに関する検討を行った。

ロゴマークを商標登録することを決定した。

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続、令和2年度の寄託依頼植物数55株、保護育成管理園27園、年度末の総保護数3,539株。令和2年度寄託費3,649,945円。

5. 環境省連携事業

29年度から継続して環境省より「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託、「環境省連携事業」として実施した。本事業は植物多様性保全委員会内に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の4項目について実施した。 国内希少野生動植物種

等の生息域外保全手法の検討、 国内希少野生動植物種等の生息域外保全の実施、 種子保存に関する検討、 生息域外保全情報管理システムに関する検討。令和2年度業務委託費 8,171,391 円

6. 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターと小笠原村、当協会の共同事業として「オガサワラグワ里親計画」の3年目。新型コロナウイルス感染症の影響で新規の里親募集等ができなかった。

・令和2年度末の里親植物園：7園（神代植物公園、環境省新宿御苑、熊本大学薬用植物園、武田薬品京都薬用植物園、尼崎都市緑化植物園、東京薬科大学薬用植物園、名古屋市東山植物園）

7. その他、生物の多様性保全に関する活動

環境省との基本協定書に基づく事業として、サガリラン、キシマイワヘゴ、ホソバフジボグサ、リュウキュウヒメハギの生息域外保全野生復帰事業、令和2年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務を実施した。

「国連生物多様性の10年日本委員会」の広報等への協力、会議出席を行った。

(3) 学術や文化の振興

1. 第55回大会行事

担当：高知県立牧野植物園

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

研究発表会（口頭発表、ポスター発表）について、発表要旨を協会誌に掲載した発表は、大会にて発表した成果とした。

2. 植物研究会・技術者講習会

第1回技術者講習会

担当：兵庫県立フラワーセンター

日付：令和2年7月10日

参加者：13名

講演：「食虫植物の魅力と育て方」 講師 土居寛文（兵庫県立フラワーセンター）

温室や屋外で栽培する、代表的な種類ウツボカズラ、サラセニア、ハエトリソウ、モウセンゴケ類、ムシトリスミレの管理方法を詳しく説明、展示温室や育成温室での管理状況を視察、説明を行った。

3. 「日本植物園協会誌 第55号」

日本植物園協会誌第55号（A4判146ページ、480部）を発行した。特集「植物園の温室」。会員への配布のほか、全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

大会の際に行う第1回目は、大会中止に伴い実施なし。

第1分野（第56回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当：国立科学博物館筑波実験植物園

期日：10月14日（水）15～16時30分（WEB会議）

参加者7園7名

審議事項：来年度の拡大会議候補地選定（国立科学博物館筑波実験植物園）

報告事項：各園の近況および新型コロナウイルスへの対応

第2分野（第38回国公立植物園運営会議）

担当：札幌市緑化植物園

新型コロナウイルス感染拡大防止のために伴い次年度に延期

第3分野

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い開催は中止。メールによるアンケート調査を実施し情報共有を行った。

アンケート回答：7園

調査項目：植物園の近況、経営実績、新型コロナウイルスへの対応策、影響など、イベントなどの開催状況等、具体的な植物についての話題等、植物園協会への意見、要望、提案、質問等

第4分野（生薬学会開催地）

開催場所の第67回日本生薬学会の延期に伴い、次年度に延期

：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

（1）講演会・シンポジウム・展示会

事業並びに関連団体等との積極的連携（共催等）

1．シンポジウム

第18回植物園シンポジウム ナショナルコレクション「守り、つなく、江戸園芸」
令和2年4月26日は中止。次年度に延期して開催する。

2．展示

「新宿御苑みどりフェスタ」（令和2年4月29日）：中止

（2）普及啓発資料の発行

1．ガイドブック、書籍

・日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を行った。

・「薬草ガイドブック 薬草園へのいざない」を5000部増刷（12月）

・ニュースレター「植物園協会ニュース32号」（11月発行）

（3）普及啓発資料の提供

1．パネル、データ貸出等

生物多様性保全に係るパネル貸し出し1件

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」(5月4日)事業

令和元年度中に作成したポスター、チラシを配布して広報活動を行った。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

実施なし

3. 自然災害被災地支援事業

東日本大震災被災地支援のため東京都夢の島植物館が継続してきた「花を届ける夢の折鶴プロジェクト」の10年目に向けた企画を検討した。

(5) 表彰

1. 表彰

大会中止のため、表彰式は実施しなかった。

木村賞 1名

瀨口 宗弘(高知県立牧野植物園)

高知県立牧野植物園において約27年間にわたって、園地および植栽の管理のみならず、園地景観の造成に大きな役割を果たした。特に、牧野植物園の磨き上げ整備事業の大きな柱である2つの新園地の園地造成と植栽設計に主導的な役割を果たし、これを実現した。また、経験に基づく高度な栽培技術を発揮し、長江圃場(バックヤード)の責任者として、海外から収集した研究用植物や伝統的園芸植物コレクションの維持管理を行い、コレクションの保全と魅力的な展示活動をリードした。

植物園功労賞 2名

櫻井 正治(京都府立植物園)

長年に渡り京都府立植物園において、特に樹木の剪定管理や安全な樹林地管理などに従事するとともに、危険木の伐採・撤去など、2年続きの台風被害復旧にも貢献してきた。展示会では、盆栽臙々展やさつき展を担当し、展示会の質の向上にも努めてきた。また、剪定技術を解説する来園者へのミニガイドも好評で、多方面にわたり植物園事業に貢献してきた。

磯部 実(広島市植物公園)

39年間にわたり広島市植物公園において植物の収集および栽培・展示、後進の指導などの業務に携わった。温室植物を中心に、栽培技術の開発、技術の継承に貢献した。1987年の世界蘭会議広島大会では展示会開催を担当し、ランの普及に大きく貢献した。日本植物園協会が行う海外植物調査に積極的に参加し、多数の新規植物を導入した。広島市植物公園大温室のリニューアル工事では計画段階から関わり、リニューアルを成功させた。

坂崎奨励賞 2名

藤井 聖子(高知県立牧野植物園)

高知県立牧野植物園において12年間にわたって園地管理の業務に従事する傍ら、牧野富太郎ゆかりの植物の基準標本産地からの収集、絶滅危惧植物の域外保全と魅力的な展示の実現による教育普及、国外での植物調査と植物導入、特に台湾からのツツジ属植物の導入、植物の個体情報管理システムの確立、ならびにそれに基づく展示ラベルの充実など優れた業績をあげてきた。また、牧野植物園50周年記念庭園、土佐の植物生態園などの管理においてもリーダーとして貢献してきた。植物園協会誌を

はじめ多くの学術誌・書籍等で論文を発表しており、将来のさらなる活躍が期待される。

柳 明宏（宇治市植物公園）

宇治市植物公園において 2013 年よりハナハスを担当し、巨椋池の蓮の収集、保全に取り組み、ナショナルコレクションの認定に貢献した。認定前より植栽展示やパネルでの解説、ハスのガイドなど普及活動を行っており、認定後はニュースレターへの寄稿や植物園シンポジウムでの講演など全国的な広報活動も行っている。地域の植物園として地元根差した普及活動をさらに展開していくための重要な人材であり、植物園事業の将来を担っていくことが期待される。

保全・栽培技術賞 2 件

「サガリランの耐暑性に関する限界温度の評価」

佐藤 裕之・赤井 賢成・徳原 憲・阿部 篤志（一般財団法人沖縄美ら島財団）

絶滅危惧 IA 類に分類されているサガリランの生息域外保全のための増殖方法と栽培要件の一つが 30 以上の高温を避けることであることを明らかにした。亜熱帯地域の植物であっても夏季冷涼な環境が必要なことは、今後の栽培技術の確立において大きな知見となる。

「シヨクダイオオコンニャクの 4 回開花」

国立科学博物館筑波実験植物園

国際的な絶滅危惧種であり、珍奇植物としても注目されるシヨクダイオオコンニャクを安定的に栽培し、同一株を 4 回開花に導いた栽培技術と管理体制が高く評価できる。

(6) 教育普及活動

1. 講演会等

第 4 回教育普及ワークショップ

期日：令和 3 年 2 月 24 日（水） 10：00～19：30

会場：Zoom ミーティングによるオンライン形式

参加者：25 団体 38 端末 70 人程度（講師、賛助会員含む）

内容

講演 1 「植物園におけるインタープリテーションの可能性 「伝える技術」を考える」

講師：古瀬 浩史 氏（帝京科学大学）

講演 2 「試してみよう！オンラインで伝える植物の魅力」

講師：小野 比呂志 氏（ホールアース自然学校）

事例紹介「植物園におけるオンラインプログラム」

1. とちぎ花センター
2. 渋谷区ふれあい植物センター
3. 東京都夢の島熱帯植物館
4. 教育普及委員会・堤委員長による情報提供

ワークショップ「植物園におけるオンラインプログラムを考えよう」

意見交換会

2. 普及啓発資料の提供等

カードループを新規に作成した（1,000 枚）。会員への配布は令和 3 年度に行う。

：目的の達成に必要な関連事業

1．後援及び協賛等（延期や中止を含む）

【協力】1件

一般社団法人日本公園緑地協会

令和2年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】9件

第13回国際食虫植物会議事務局

第13回国際食虫植物会議

フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

令和2年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

TSO International 株式会社

レジャージャパン 2020

広島市植物公園

特別企画展「被爆樹木展 75年目の記録」

公益社団法人日本植物学会

植物が好き！ 植物科学が拓く新しい世界 2020

クリスマスローズの世界展実行委員会

第18回クリスマスローズの世界展

沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

令和2年度沖縄国際洋蘭博覧会

淡路夢舞台ミュージアムパーク共同体

淡路夢舞台ラン展 2021

江津湖公園

展示企画

2．ホームページ活用及び広報活動

今年度予定していたリニューアルは次年度に延期

3．諸会議

1. 第55回定時総会

日時 令和2年6月16日（火）

会場 公益社団法人日本植物園協会事務局

議題 第1号議案 令和元年度決算 第2号議案 役員の選任

第3号議案 名誉会員の推挙

第1号報告 令和元年度事業報告 第2号報告 令和2年度事業計画

第3号報告 令和2年度収支予算 第4号報告 社員等の異動状況

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第1回臨時理事会 令和2年5月8日（書面・決議省略）

第2回臨時理事会 令和2年5月19日（書面・決議省略）

- 第3回臨時理事会 令和2年6月22日(書面・決議省略)
- 第4回臨時理事会 令和2年8月7日(書面・決議省略)
- 第5回臨時理事会 令和2年12月15日(WEB会議)
- 第1回通常理事会 中止(理事会運営規程により、5-6月にしか開催できない)
- 第2回通常理事会 令和3年3月11日(WEB会議)

【執行役員会】(代表理事と業務執行理事による会議)

必要に応じてメール会議を開催した。ZoomによるWEB会議を10月1日11:30-12:00に行った。

【監査】

令和元年度事業について、令和2年4月10日に岩隈監事、吉岡監事による監査を実施した。

【委員会】

- ・研究発表委員会(メール会議、12月8日WEB会議)
- ・植物多様性保全委員会(メール会議)
 - 絶滅危惧植物保全データベース分科会
 - 絶滅危惧植物の情報取扱い分科会(2月22日WEB会議)
 - 絶滅危惧植物保有状況調査分科会
 - 外来種対策分科会
 - 環境省連携事業分科会
- ・ナショナルコレクション委員会(6月9日、10月16日、3月7日:すべてWEB会議)
- ・国際交流推進委員会
- ・ホームページ委員会
- ・協会表彰候補者選考委員会(メール会議2回)
- ・植物園シンポジウム企画委員会
- ・将来計画検討委員会
- ・教育普及委員会(3月5日WEB会議)

4. その他

【関連団体等との連携、提携、協力】

1)『新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン』

新型コロナウイルス感染拡大に際し、公益社団法人日本植物園協会会員園が感染予防策を講じて開園し、感染予防対策にご協力いただける来園者を温かく迎え入れる際に参考にしていただくことを目的としたガイドラインを策定した(担当:酒井理事、高野理事、榎本理事)。

2)久留米市みどりの里づくり推進機構・久留米市世界つつじセンターの依頼を受け、クルメツツジ品種調査に協力した。結果は協会誌で報告予定。

令和2年度事業報告 附属明細書

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。